

耐震等級と省令準耐火のちがい

どちらも「家の性能」の話ですが、役割はまったく別です。

耐震等級＝地震の強さを第三者が証明する「証明書」（取得に費用がかかる）

省令準耐火＝火事に強い構造の国の基準（セルコホームは標準仕様・追加費用なし）

① 何が変わるか

項目	耐震等級（2・3を取得）	省令準耐火
目的	地震の強さの証明	火事に強い構造の認定
追加費用	数十万円（評価料＋構造計算）	0円（セルコ標準）
火災保険	変わらない	鉄骨と同じT構造 → 約半分
地震保険	割引が増える（等級3で50%）	安い区分（I構造） → 約4割安
住宅ローン	フラット35S金利引下げ（新規のみ）	関係なし

② 組み合わせで比べると

組み合わせ	追加費用	火災保険	地震保険	結論
一般的な木造（省令準耐火なし）	0円	高い	高い	いちばん損
◎ 等級1（書面）＋省令準耐火	0円	約半分	約4割安	コスパ最良
等級3取得＋省令準耐火	数十万円	約半分	約7割安	費用と節約がほぼ相殺

③ 地震保険の目安（愛知県・新築・保険金額1,000万円・1年あたり）

仕様	保険料／年	35年の合計
一般的な木造（ロ構造・建築年割引10%）	約17,600円	約61万円
◎ 省令準耐火（I構造・建築年割引10%）	約10,400円	約37万円
省令準耐火＋耐震等級3（I構造・耐震等級割引50%）	約5,800円	約20万円

まとめ

セルコホームのツーバイフォーは、構造の実力は耐震等級2～3相当。書面上は等級1でも、**省令準耐火によって火災保険・地震保険とも鉄骨の家と同じ安い区分で契約できます。**

耐震等級3の証明書を数十万円で買っても、35年の保険料の節約額とほぼ同じ。**お金をかけずに実利を最大化した状態が「等級1＋省令準耐火」**です。

※地震保険は財務省公表の基本料率（2022年10月改定・愛知県 I構造11,600円／ロ構造19,500円）に割引を当てた概算。長期係数は未考慮。割引は併用不可（最大の1つのみ）。火災保険の「約半分」はH構造とT構造の一般的な差。評価費用は一般的な相場です。

セルコホーム名古屋西（大浜建設株式会社）